

造形通信

2023. 10月
NO.64
ひいらぎこども園

やっと空も風も秋らしくなってきました。澄み渡る青い空、浮かぶ白い雲、過ごしやすい空気の中で子どもたちは元気に活動しています。運動会も終わり、これからは自分のやりたいことに没頭できる時間がたっぷりあります。一人一人がどんなことに夢中になっていくのか楽しみです。

作ること

大好き!

描くこと

お話の絵に挑戦!

京都新聞の「お話を絵にする」コンクールの課題図書『マッテオじいさんのふしぎなジェラート』の本を先生に読んでもらいました。子どもたちはお話が大好きです。お話を聞きながら、お話の世界の中にどんどん入っていきます。そして、自分たちでジェラートを作ってみようということになり、ジェラート作りが始まりました。お部屋の中がジェラートでいっぱいになると、今度は「絵を描きたい!」という子どもたちの声が上がってきました。そして、画用紙に思い思いのジェラートを描き始めました。『作る』から、イメージが膨らみ、次は『自分で描く』という活動につながっていききました。



先生の読みがたり!
お話の世界にひきこまれていきます。



個性あふれるジェラートができました!



ぼくのジェラート
すごいでしょ!



飾りをいっぱいつけたよ!



ぼくたちは大きなジェラートを作ったよ!

わたしはうんと高くするよ!



ジェラート作りに夢中!!



画用紙いっぱいにジェラートを描く



年中児



年長児

同じお話を聞いても子どもによって感じ方は違います。大きな塊として捉える年少児とまわりとのつながりや全体が捉えられる年長児。発達段階によっても表現が違ってくるので、おもしろいですね。

できあがり!

おいもを描く

みんなでお芋ほりに行きました。取ってきたお芋を見ながら、太筆でいきにお芋を描いていきました。ぐるぐる筆を動かして色が混ざっているうちに、お芋らしい色になっていきました。3歳児は大きなかたまりとして感じたことを大胆にとらえることができます。

さて、どんなおいもができるのかな?楽しみ!

